

# 会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	観光商工課・税務課
会議名 (審議会等名)	第2回嬉野市入湯税等検討委員会		
開催日時	令和6年11月14日(木) 13時30分～		
開催場所	嬉野市役所嬉野庁舎3-1会議室		
傍聴の可否	○可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委 員	山口剛委員、北川委員、田島委員、向井委員、 山口敦委員、早瀬委員、永江委員、井上委員、中野委員	
	事務局	観光商工課長、税務課長	
	その他		
会議の議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料説明</li> <li>・ 入湯税の増額の協議</li> </ul>		
配布資料	式次第、入湯税等検討委員会資料		
審議等の内容	別紙のとおり		

# 審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	観光商工課・税務課
議 題	ア) 資料説明 イ) 入湯税増額の競技		
内 容	下記のとおり		
審議経過	○説明 事務局	ア) 資料説明 ① 第1回委員会の主な意見 ② 入湯税と宿泊税の比較 ③ 入湯税嵩上げの他都市の事例 ④ 宿泊税導入の他都市の事例 ⑤ 事務局からの提案 ⑥ 増額試算 ⑦ 新たな財源の使途 について説明	
	○協議 委員	県内の各自治体の状況ですが、嬉野市は入湯税だが、他の地区も入湯税として適用されてるのか。	
	事務局	何らかの公衆浴場等があるものと思われます。鹿島でいえば奥平谷なんかそうだと理解しております。佐賀市も古湯なんかはそれだと思います。	
	委員	観光客のことを考えると集客の意味で増税したくはない。単価を上げるのではなく新たなアクションで集客に力を入れては。	
	事務局	観光客の印象としては上げたくはないが、新たなアクションや温泉施設維持のためには増額が必要と考える。	
	委員(市)	入湯税増額に関しては、コロナ以前の6年前から動いていた。コロナで動けなくなったが、コロナ前まで戻り観光客が盛り返したので引き続いての協議となった。観光客のアンケートでは半分がリピーター、特に関東からの客が多い。インバウンドが好調でもあり、外国客への対応するための施設も必要となっている。また、近隣市町との連携のための予算も必要になってくるだろう	
	事務局	宿泊税に関しては、全く白紙から創設となり、さらに慎重な議論が必要となることから、今回は入湯税のみ嵩上げの議論をと考えています。	

委員		<p>全国規模で見ても入湯税を増額したことで観光客が少なくなったことは聞いていない。</p>
事務局		<p>観光戦略のアクションプランなどで財源が必要の見込みということもあり、ご理解いただきたいと思っている。</p>
委員（市）		<p>滞在中の観光消費額を上げていただくための仕組みを考えていかないと嬉野市が潤っていかない</p>
委員		<p>現在、温泉が道路に漏れていることもあり、配管調査を含めた温泉存続のためにも必要なこととして納得いただけるのではないかと。</p>
委員（市）		<p>今回の増額分については、全額観光関連の予算に充当するつもりである。</p>
委員		<p>額としては集客のこともあるので慎重に決めなくてはならない。旅館業界のことまで考えると宿泊 100 円、休憩 50 円くらいの嵩上げが妥当でないか。（委員同意）</p>